

＜昔の大内宿のすがた＞

江戸時代の大内は、江戸（現在の東京）と会津若松を結ぶ大変重ような街道（道路）にありました。大内の人々は、宿屋を建て旅人をとめて生活していました。大名がとまる問屋本陣というりっぱな宿もありました。大内の人々は、そのほかにも馬を飼い、荷物を運ぶ仕事をしたり農業などでも生活していました。



◀かやぶき屋根のふきかえ

かやぶき屋根をふきかえる家には、前夜から村中の人々が集まり、なわないをしました。それは、とてものにぎやかだったといわれています。

▼おもや主屋のまどり

